

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 1	「学び合う学び」を支える教員研修の実施	施策 1	学校教育課	1 ～ 2	○「学び合う学び」を土台にしながら「探究的な学び」を充実させることで、一人ひとりの生徒が、学びの良さを実感し、自ら学ぶ力を高めていくよう、学校や市のレベルの授業研究や教員研修の充実を図ってってください。 ○「学び合う学び」を基本目標として20年になります。学び合う学び方を学ぶという「協同と探究」を理念とする、社会に出てからも通じる大切な基本方針を、各校において今一度原点に戻って確認し合う必要性を感じます。 ○総合的な学習の時間を拡充して、こまき「夢☆チャレンジ」科とし、My探究とテーマ探究の2本柱で小牧独自に始めたことは画期的なことであり、次期学習指導要領を見据えた先見の明は素晴らしいと思います。その取り組みが、どういう成果や課題を生んでいるか、現状を注意深く見て必要な研修や改善を施す必要があると思います。 ○ニーズを踏まえた多様な研修の実施を評価します。経験の少ない教員の増加を見据え、具体的事例に基づくO J Tの充実と、多忙化に配慮した効率的な研修計画の工夫が望まれます。 ○「探究的な活動」は、地域と関わりながらの社会性や主権者意識養成の場として重要な学習機会であると考えます。児童・生徒目線での興味や関心を集約したり活動事例を共有するなどして、今後に役立つデータや資料を収集することで、意義深い学習活動として定着させていただきたいです。 ○こどもたちが『学んでよかった』『もっと学びたい』と思うことができ『分からない』が言いやすい環境にして欲しいです。
	I C Tを活用した学びの充実	施策 3	学校教育課	3 ～ 4	○AIの活用法や、利用ガイドラインは喫緊の課題です。使いすぎや依存には十分に注意をはらいながら、個性の尊重、思考力の育成、仲間との交流支援のためのAIの活用方法を模索していくべきと考えます。 ○国は、「リアルな学びをデジタルで支える」の方針を示しており、タブレットを使うことが目的ではなく、真に学びを深める道具としての位置づけをしていますので、この視点での授業改善の必要性を感じます。 ○情報モラルは情報処理能力に含まれる重要な学習基盤です。メリットばかりなくデメリットがあることを含め、正しい使い方を系統的に指導する必要性を感じます。 ○振り返りデータの蓄積や共同編集の活用など、1人1台端末を学びの深まりにつなげる実践は高く評価できます。今後は困難を抱える児童生徒への支援や校務D Xへの活用拡大を進めていただきたいと思います。 ○施策14「I C T機器の整備・充実」とも関連することですが、学校現場での生成AIなどのツールの利用については手探りの段階だと思います。教育機器としての有効活用については喫緊の課題であり、積極的に取り入れるためのマニュアルやルールづくりの取組に期待しています。 ○ICTの活用については、今後も必要なことだと思いますので、I C T支援員の来校回数を増やすため、I C T支援員の拡充を期待します。
	学校生活サポーターの配置	施策 4	学校教育課	5	○「学校生活サポーター」の人員配置が年々増加していることは、支援を必要とする児童生徒にとって好ましいことです。さらに、実態としてどのような効果や課題があるかを明らかにして、中長期的な支援体制の充実を目指してください。 ○支援に必要な児童生徒数に比例しての配置が必要です。また、業務内容も多岐にわたり、教諭と変わらないことから、少しでも待遇の改善があればと思います。 ○特別支援学級の在籍者が増加する中、「学校生活サポーター」を増員し合同研修で支援の質を高めている点は評価できます。今後も児童生徒の状況に応じた適切な配置が継続できるよう、必要な体制の確保をお願いします。 ○特別支援教育は、今年開催の第5回アジアパラ競技大会を契機として、パラスポーツの観戦や情報収集などを通した一層の関心の高まりに期待しています。そして、児童生徒を積極的にサポートするという観点から、「できること」にチャレンジするという積極的な考え方も重要だと思います。 ○特別支援学級の児童が増えているのため、「学校生活サポーター」の拡充も必要ですが、特別支援学級の担任と「学校生活サポーター」の情報共有がしやすく聞きやすい環境作りも必要だと思います。

基本目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本目標 1	必要に応じた語学相談員の配置	施策 5	学校教育課	6	○外国人児童生徒一人一人の日本語能力、適応能力をよく見極めることが何よりも大切です。例えば、取り出し指導も個別に指導できる良い面と、取り出せばその時間は母学級から抜けて、学級での動きが何も分からない状態をつくることになります。どちらがより適切か、ひとえに一人一人に合った指導環境を模索することに尽きると思います。 ○語学相談員と日本語初期教室による支援は、多言語化に対応する重要な取組です。相談員ひとりあたりの児童生徒数は改善しており、初期教室の体制増強と施設確保を着実に進めていただきたいと思います。 ○施策 1 1「児童生徒に対する学習支援の実施」とも関連することですが、「日本語初期教育」と「駒来塾」は、外国人児童生徒にとっては将来の進路を考える上で極めて関連が深いものだと思います。その観点での連携や指導体制づくりが大切だと思います。 ○日本語が不自由な児童生徒の増加に伴い、語学相談員の拡充も必要だと思います。
基本目標 2	児童生徒の心のケアの実施	施策 6	学校教育課	7	○スクールソーシャルワーカーの人数は頭打ちになっていますが、ニーズに応えられているかを検証し、教師の働き方改革を進めながら、他職種連携を校内で深めていくことが求められています。 ○増え続ける相談件数を 4 人体制で対応するのは大変だと思います。6 人への増員ができればよいのですが、往々にしてスクールソーシャルワーカーに頼りすぎないようにしていただきたいと思います。 ○スクールソーシャルワーカーの増員と訪問回数の増加により、連携した対応が進んでいる点を評価します。6 人体制を目指す方針を支持するとともに、関係機関との緊密な連携と早期対応が望めます。 ○児童生徒の心のケアについては、貧困、ヤングケアラーなど家庭環境が要因であることも多くあり、学校の対応にも限界があると思います。そのため、校内組織の充実や関係児童生徒への対応を中心に外部の関係諸機関のそれぞれの専門性を生かした対応や連携に期待しています。 ○スクールソーシャルワーカーは毎日来校する訳ではないので、こどもたちにとって話しやすい雰囲気（身だしなみや話し方など）がとても大切だと思います。
	こどもの発達段階に合わせた図書館資料の選書・充実	施策 8	図書館	8	○「こまきふるさとカルタ」を通して、こどもの読書習慣の形成につながるような支援をお願いします。 ○現時点では、1 セット程度しか普及されていないとのことですが、文字通りふるさと小牧を楽しく学ぶにふさわしいものですので、市内への普及・活用を望みます。 ○「こまきふるさとカルタ」の作成は、司書の専門性を生かし、こどもが楽しみながら郷土への愛着を深められる優れた取組です。今後は知名度の向上が鍵となるため、こどもが集まる場と連携した活用機会の拡大や、点訳版・音訳版の作成による「すべての人が楽しめる」資料としての充実を望みます。
	栄養教諭・学校栄養職員等による食育・給食指導	施策 1 0	学校給食課	9 ～ 10	○栄養教諭らによる巡回での食育は意義がある活動です。各学校のカリキュラム・マネジメントに位置付け、保健・体育の授業や、保健室活動、給食指導など関連付け、健やかな成長を図る食育の充実を期待しています。 ○栄養教諭による食育指導は、担任の指導とは一味違う専門的な見地からのもので、給食センターとの兼務で忙しいとは思いますが、児童生徒への指導の機会を大切にいただきたいと思います。 ○巡回指導や地産地消、ユニバーサル給食など多面的な食育を評価します。食物アレルギー対応の基本方針策定も意義深く、ＩＣＴ活用による指導機会の確保と物価高騰下での栄養量確保の両立が課題です。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 3	児童生徒に対する学習支援の実施	施策 1 1	こども政策課	11 ～ 12	○駒来塾の会場を増やし、入塾時期を柔軟にしたことで、こどもの学びの場として定着してきています。今後も、生徒のニーズに合わせた運営をお願いします。 ○徐々に拡充されて、学びたいという意欲や機会が増えることはよい方向であると思います。学習サポーターはできるだけ年齢の近い方がよいと思うので、引き続き、大学生の確保を目指していただきたいと思います。 ○南部地区への新設や見学会など参加しやすい工夫により、多くの生徒の参加を得ている点は評価できます。継続参加につながる関係づくりと、大学生サポーターの確保に向けた働きかけをお願いします。
	こども夢・チャレンジ事業の展開	施策 1 3	こども政策課	13 ～ 16	○各事業が充実してきていることがわかります。 ○「②市内産業見学会開催事業」と「⑤こども夢サポーター制度」については、中学生の職場体験と同様の趣旨であり、ねらいが重複している印象を持ちます。職場体験を支援していただく企業・団体に対して、サポート企業・団体として認定し、その取り組みを紹介するなどして、企業・団体を支援する形がよいのではと思います。○③夢にチャレンジ助成金支給事業、④大学生等海外留学奨学金支給事業の取り組みはよいと思いますが、③夢にチャレンジ助成金支給事業の中学生への助成金支給は、仮に申し出があっても経験のない中学生が有効に活用できるか疑問に思います。 ○こどもの夢を多角的に応援する取組を評価します。助成金の対象拡大も時宜に合っており、ＳＮＳ等を活用した各事業の周知・参加者拡大と、事業間の連携強化が望まれます。 ○「高校生等社会参画事業」は、若者の主権者意識高揚のための絶好の企画であると思います。若者の柔軟な頭脳や発想力を生かした街づくりなどのアイデアや改善プランは、その考え方が中学生にも近いものがあるとも思います。そのため、関係高等学校や県教委(高校教育課)との連絡調整を図ると共に、共通する「探求学習」や地域での諸活動などを通して、こども政策課や教育委員会などが積極的に中高連携の橋渡しに貢献されることを願っています。 ○授業などで夢について考える時間があることは素晴らしいと思いましたが、こども達が夢を思い描く事は楽しいと思えるような授業があればより良いと思います。
	学校施設の改修	施策 1 4	教育総務課	17 ～ 18	○居心地のよい学校づくりに向けて、計画的な施設改修を進めてください。 ○老朽化した校舎とすでに改築を行った学校とは雲泥の差があります。学習環境の改善は、どんな教育改革より大きいと思います。大きな予算が必要ですが未来への投資であることから、できるだけ早く他校の改修も進めていただきたいと思います。 ○体育館への空調設置やトイレ洋式化など、安全・快適な環境整備が着実に進んでいます。米野小学校改築は設計・工程を見直し再公告へ進めた対応が適切で、工事期間中の安全確保と周辺への配慮をお願いします。 ○体育館への空調機の設置が完了したため、その活用が期待されます。また、児童生徒の学校教育諸活動での利用に留まることなく、地域での諸活動やスポーツ協会のジュニア育成活動などにも積極的に利用できるような予算措置を含めた体制づくりに期待しています。 ○米野小学校の改築工事により、米野小学校のグラウンドをホームとして活動しているクラブの練習場所の確保が困難となっています。代替場所が遠くなったり、有料施設での練習となると保護者やクラブの負担が大きいと考えます。市の事業による改築のため、補助金の交付や近隣校（応時中学校等）などが使えるようにするなど組織的な支援が必要だと思います。 ○全校で熱中症対策をより強化して頂きたいです。気温が上がってきている５月下旬頃から各教室の空調の点検を学校でしていただけると安心です。
	ＩＣＴ機器の整備・充実	施策 1 4	学校教育課	19 ～ 20	○魅力ある授業づくりと、教師の働き方改革の視点から、ICTの充実を今後も続けてください。 ○ＩＣＴ機器については、全く使用していなくても更新に多額の費用が必要であり、これまで長年に渡り、使用頻度が非常に少ないものについても「あった方が便利」と多額の予算を使ってきました。ドリル的なものは最小限にし、真に学びの向上や探究活動に必要な機器やソフトに厳選して有効活用を図っていただきたいと思います。 ○タブレット端末の更新や通信速度の増速など、学習基盤の整備は評価できます。教員の習熟度の差を踏まえ、ＩＣＴ支援員の活用や操作研修による活用力の底上げと、校務支援システムのクラウド化の調査研究が望まれます。

基本目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本目標 3	学校再編推進事業	施策 1 4	教育総務課	21 ～ 22	○地域と行政の対話を重視してください。特に、こどもたちの意見が表明できる機会を大切にしてください。 ○篠岡地区においては学校再編計画が策定され、学校再編の見通しが立ったことは何よりのことだと思います。昨年の東部5小学校区の出生数が70余名とのことから、令和13年の新1年生が70余名であることは、ほぼ確定値であることから、早急に第2期再編を準備する必要があると考えます。同時に、令和9年度以降空き校舎となる、篠岡小、陶小、大城小、篠岡中の4校については、これまで実現できなかった文化施設（音楽練習用施設）、教育センター、福祉関係などの有効活用に向けた計画づくりを進めていただきたいと思います。 ○「考える会」や住民説明会、パブリックコメントを丁寧に重ねた合意形成を高く評価します。スクールバス体験乗車等で児童生徒の不安解消に努める方針を支持し、巾下・北里地区でも早期の協議開始が望まれます。 ○「篠岡地区の学校再編」は具体的な段階に入っています。関係地区住民の理解と納得に基づき、それぞれの課題を解決して来年度の開校に向けたスケジュールを完結されることに期待しています。
基本目標 4	教育・保育の質の向上	施策 1 6	幼児教育・保育課	23 ～ 24	○次期学習指導要領にむけて、幼保小中が連携して学び合うことは貴重な機会ですので、今後の充実を期待しています。米野小学校区の「架け橋期カリキュラム」の先進事例を市内に展開することが大切です。 ○長年に渡り公開保育や研修等を通じて連携を深められてきたことは、素晴らしいことであり地域の基盤となっています。校種を越えて理解し合うことで繋がりが生まれ、日頃より連携した指導に繋がっていくものと期待します。 ○公開保育や研修会を通じ、幼保小の学びの連続性について共通認識を深めている点を評価します。「架け橋期カリキュラム」作成の取組も意義深く、学校教育課と連携した一層の推進をお願いします。
	放課後子ども総合プラン	施策 1 8	こども政策課	25 ～ 27	○従事者の確保が課題であるとのことではありますが、どのこどもも安心できる安全な居場所づくりの取り組みの充実が求められます。 ○長年に渡る懸案だった放課後子ども総合プランが完全実施できて2年になることから、定着してきたと思います。引き続き、互いに無理のない範囲で進めていただきたいと思います。 ○全16小学校での多彩な体験活動と児童館との連携を評価します。従事者・活動場所の確保が課題となる中、希望する児童が参加できるよう、学校再編後も見据えた体制づくりが望まれます。 ○放課後子ども総合プランを持続可能な事業として位置づけるためには、本市独自の総合プランに位置づけることが必要だと思います。そして、事業の一本化の実現可能な体制づくりのため、放課後児童クラブや放課後こども教室の運営に関する予算や従事者の状況(手当や負担感の違いなど)、さらには参加する児童が負担する費用などを見直すことが必要だと思います。
基本目標 5	市民講座の実施	施策 2 1	文化・スポーツ課 市民センター管理課	28 ～ 30	○ホームページ等は見やすいものの、講座の検索性に課題があり、検索機能や情報発信の改善が求められます。 ○多様で魅力ある講座が企画されている点は評価できます。講座がきっかけとなってサークル活動となり、市民による文化活動へと発展している団体がいくつもありますが、講座を契機とした活動の継続には、資金や指導者、活動場所の確保といった課題があります。特に、活動場所の確保は非常に重要となります。市民文化を育て応援する姿勢を市と文化財団にはより強く持っていただきたいと思います。 ○講座が日中開催のため、受講者の多くが60代以上であるのはやむを得ないと思います。今後、勤労者など幅広い世代の参加を促進するため、講座の種類や内容の見直し、土日や午後6時以降に講座を開催するなどの工夫が必要です。 ○多分野の学習機会の提供と、サークル化など学びの継続への工夫を評価します。受講者が高年齢層に偏る中、開催日時・内容の工夫やSNSの活用により、幅広い世代が受講しやすい講座づくりが求められます。 ○子育て世代等の参加者が何故少ないのかをアンケートを実施するなどして、定期的に把握する必要があると思います。
	生涯学習を推進する人材育成講座の開催	施策 2 2	文化・スポーツ課	31	○生涯学習の担い手を発掘し、世代交代を図っていく必要があります。 ○生涯学習のリーダーまたはリーダー候補として活躍している方も苦労や悩みはあるはずです。しかし、それぞれに一言を持った方々の心をつかむには、相応の講師でないと集客は難しいと思います。一方、今後欠かせないのはSNS等を使った情報宣伝活動です。こういった分野への講座は必要と考えます。 ○ワクティブこまき等と連携した実践的な人材育成講座は評価できます。学びを地域活動につなぐ視点は重要であり、講座修了後の活動の場の紹介など、継続的な伴走支援の充実をお願いします。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 5	障がい者サービスの実施	施策 2 3	図書館	32 ～ 33	○良い取り組みですので、利用者のニーズに応じて取り組みを進めてください。 ○読書バリアフリー資料・サービスの充実とイベントの開催を評価します。とりわけ新規利用登録者数が前年度の 0 人から 9 人へ大きく増加した点は、個別説明会など積極的な働きかけの成果です。音訳・点訳ボランティアの高齢化や人材不足はサービスの持続可能性に直結する課題であり、会員獲得や P R への支援強化が望まれます。 ○福祉施設の方々を定期的に招いてより良いものを考えていけたら、なお良いと思います。
	こまき市民交流テラス（ワクティブこまき）との連携	施策 2 4	文化・スポーツ課	34	○市民活動の拠点としての役割は果たしていますが、会合や印刷が主で、活動支援等困った時に気軽に相談できる場でありたいと思います。 ○団体情報・講師情報の共有など、生涯学習と市民活動をつなぐ連携を評価します。「学び」から「つながり・活動」への循環を生む取組として、引き続き、広く周知し活動の裾野を広げていただきたいと思います。 ○施策22と関連することでもあります。こまなびサロンと市民交流テラス(ワクティブこまき)の活動拠点を同じフロアーにして（こまなびサロンの移動など）容易に交流できる環境づくりを提案します。市民の自主的な行動を促進するという観点からも、相談窓口を一本化することが必要だと思います。
基本 目標 6	スポーツ教室の開催	施策 2 5	文化・スポーツ課	35 ～ 36	○ミニトランポリンは参加者上昇傾向にあります。また、テニス・卓球などは人気があります。今後も市民のニーズにあったスポーツの機会の提供を続けてください。 ○各種スポーツ教室と団体支援により、継続的にスポーツに親しむ機会を提供している点を評価します。スポーツ実施率が目標に達せず、特に 3 0 ～ 5 0 歳代や女性のスポーツ実施率が低いため、これらの世代を対象とした施策の検討が課題です。 ○スポーツ活動のニーズは様々で多様化しています。担当部局が「市民総スポーツ」を掲げて、その実現に向けて努力するという姿勢が、市民から「可視化」できるとよいと思います。例えば、市民からの希望受付窓口やスポーツ活動相談窓口の開設(ネットや電話)など、市民へ積極的に働きかけることなどです。市民の意見や希望の集約は新規事業開設の参考にもなり得ると思います。
	こども対象のスポーツ教室の開催	施策 2 6	文化・スポーツ課	37 ～ 38	○今後もこどもを対象としたスポーツの機会の充実に努めてください。 ○親子ふれあい体操教室やジュニア育成事業など、幅広い機会の提供を評価します。一部教室で定員割れが生じており、児童館等での P R など周知方法の工夫による参加者確保と、実施回数の適切な検討が求められます。 ○こどもたちのスポーツ環境は多岐に渡っています。就学前のこどもたちの様々な身体活動もスポーツのスタート地点として積極的に捉えて、生涯スポーツの「ブックススタート」と同様の考え方にに基づき「スポーツスタート」として、市民に理解し易いスポーツ環境になることを希望します。具体的には、「保健センター」や「こども政策課」などのこどもたちの活動を一元的に捉えることから始めることだと思っています。その調整機関としての文化・スポーツ課に期待しています。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 6	地域部活動の検討	施策 2 6	学校教育課 文化・スポーツ課	39	○休日の部活動の担い手を増やしていくことが課題です。学校の働き方改革とともに、地域の企業の理解も必要と思われます。 ○国の方針として地域連携・地域展開が示されていますが、容易ではないだけに目標年が後ろ送りにされました。指導者、予算、活動場所の確保が必須ですが、責任の所在を明確にすることも重要です。スポーツ以上に難しいのは文化活動です。とりわけ、吹奏楽は活動場所の確保が難しく、以前発足させたジュニア吹奏楽団も解散に追い込まれました。しかし、東部地区の学校再編により空き校舎が生まれ、今なら活動場所や楽器の目途が立つだけに、発足に向け絶好のチャンスであると考えます。このチャンスを逃さず、市当局の全力支援を期待します。 ○モデル校での休日の地域連携部活動により、活動機会の保障や練習の質の向上といった成果が得られています。指導者の量・質の確保等の課題を踏まえ、令和9年度からの地域展開に向けた枠組み構築を着実に進めたいと思います。 ○教育課程外の学校教育活動としてスタートした部活動(特に運動部活動)は、様々な理由によってその位置づけ方が混迷しています。その改善策の原点は、「学校視点から地域視点へ」とする考え方の切り替えだと思っており、現状ではそこが割り切れていないと思います。当面は、学校主導の部活動の状態が継続するように思いますが、学習塾産業と同様に、受益者の負担により各種のスポーツ指導が一般的な職業として成立するような社会情勢になれば解決する問題だと思っています。その場合の利用スポーツ施設は学校体育施設の有料貸与が中心だと思います。 ○部活動の時間がもう少しあってもよいと考えます。部活動の時間以上にやりたいと思っているこどもはクラブチームなどへ加入せざるを得ない状況であり、クラブチームなどで試合に出場すると、部活動の試合に出場できなくなる場合もあるという課題があります。また、部活動における教員の働き方や、種目経験のない教員が部活動を担当する場合の課題に対しては、専門性を持った外部コーチ等の導入も視野に入れても良いのではないかと思います。こどもは3年間しか部活動をすることが出来ない（実質2年弱）ため、熱心な顧問の中学校は練習時間が確保され、上達し強くなるということは、学校を選べないこどもにとって、公平ではないように感じます。
	スポーツ施設の環境整備	施策 2 8	文化・スポーツ課	40	○アジア競技大会を見据えた計画的な改修・更新を評価します。施設の老朽化が進む中、予防的な整備の重要性は指摘のとおりであり、関係部署と協議しながら安心・安全に利用できる維持管理に努めていただきたいと思います。 ○アジア競技大会を契機に、市民が健康やスポーツにより関心を示して、本人の健康づくりなどの活動につながることを期待しています。
基本 目標 7	身近で良質な鑑賞機会の充実	施策 2 9	文化・スポーツ課	41 ～ 42	○財団が発足して以降、様々に工夫のある演目が増えたと思います。また、中部フィルハーモニー交響楽団も充実した聴き応えのあるプログラムが生まれ、本市は十分に恵まれた鑑賞機会が提供されていると思います。引き続き、質の高い魅力ある演目の提供に努力していただきたいと思います。 ○財団の専門性を生かした多彩で良質な鑑賞機会の提供を評価します。コンサートの来場者数が減少しており、幅広い世代の関心を引く企画と周知方法の工夫により、来場者数の回復・増加を図ることが望まれます。 ○とても楽しみに利用させていただいています。
	こどもを対象とした文化事業の実施	施策 2 9	文化・スポーツ課	43 ～ 44	○本市の大きな特長として中部フィルハーモニー交響楽団の幼保小中への巡回公演があり、十分な鑑賞の機会が設けられています。今後は、少年少女合唱団や、文化部活動の地域展開を支援する体制づくりが急務だと思います。 ○学校アウトリーチや巡回演奏など、学校と協働した文化体験の機会提供を評価します。身近で継続的な文化活動の環境づくりが重要であり、ニーズ把握に基づく事業充実と、部活動の地域展開を見据えた検討が望まれます。
	市民文化活動への支援	施策 3 1	文化・スポーツ課	45	○施策2 8「スポーツ施設の環境整備」がスポーツ分野にはあるように、施策○「文化施設の環境整備」を施策として挙げ、市民文化活動がのびのびとできる充実した環境を整備していただきたいと思います。とりわけ、市民音楽活動は音が出るだけに防音が整った活動場所と楽器保管場所の確保が急務だと思います。 ○「文化百花」など市民参加型の新たな試みや、市民会館ホールの貸出制度の整備を評価します。団体の高齢化や若者の受け皿不足を踏まえ、関係機関が連携し、文化の継承と次世代育成、発表の場の創出に取り組むことが課題です。 ○小牧市で日本の文化の継承などの活動されている方をより多くの人に知ってもらえるような制度を構築できるといいと思います。

基本目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本目標 7	文化財団の活動支援	施策 3 2	文化・スポーツ課	46 ～ 47	○財団のビジョンに「市民がともにつくる文化を支え…」とありますが、5つの事業に市民文化活動を支える事業がありません。高齢化が進み、先行き不安を抱える市民文化活動を専門的な立場でサポートしたり、相談できる組織的な仕組みができるとよいと思います。 ○財団が発足して10年目を迎え、財団がこれまでをどのように振り返り、次の10年を何を目標そうとしているのかを示していただきたいと思います。 ○財団のＨＰに市民活動のイベントを載せていただくようになりましたが、財団主催に注力されている印象です。同じ市民文化を支えるものとして市民活動も大きく分かりやすく扱っていただきたいと思います。 ○普及・伝統文化・舞台・美術・広報の各事業を専門性を生かして展開している点を評価します。限られた予算・人員の中で継続するため、市と財団が課題を共有し、連携・協力により質の高い事業を提供し続けていただきたいと思います。
基本目標 8	文化財の指定・保護	施策 3 3	文化財課	48	○ラピオの4階に開設予定のこまき歴史発見館の有効活用について、多くの市民（一般・こども・家族・学生等）や校外学習・遠足等の団体（個人・グループではな多人数）が見学・学習で利用できることに期待しています。 ○新たに保護すべき文化財を見出す調査の継続を評価します。今年度は指定候補に至らなかったものの貴重な資料を確認しており、調査範囲の拡大と、こまき歴史発見館等を活用した周知による新たな発掘が望まれます。
	古文書・歴史に関する講座等の開催	施策 3 4	文化財課	49 ～ 52	○講座の参加者数から、歴史への関心の高さが分かります。特に、図書館のイベントスペースは、別の目的での来場者の関心も引くことができますので、効果的と思います。 ○多世代が郷土の歴史に親しむ多彩な講座を評価します。歴史基礎講座の参加者が固定化・減少する中、こども向けの工夫やＳＮＳの活用による若い世代の関心喚起と、図書館の郷土資料との連携が望まれます。
	史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進	施策 3 5	小牧山課	53 ～ 54	○小牧山についてはテレビなどでも見かける機会が増えており、市民や市民以外の関心も高いと思います。小牧山は目立ちますが、アクセスや駐車場などわかりやすい案内が必要に思われます。 ○石垣復元整備の完了やＱＲコードによるＣＧ・音声解説の設置など、史跡の価値を顕在化する整備を評価します。時代が重層する遺構は関係機関と協議のうえ適切な復元整備計画を立案し、計画的に進めていただきたいと思います。
	史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発	施策 3 5	小牧山課	55 ～ 57	○小牧市民にとって小牧といえば小牧山というほど、小牧山は小牧市のシンボルであり、誇るべき存在です。こどもの頃に、誰でも1度は遠足や花見などで、親しんでいるものです。しかし、小牧山の魅力についてどれだけの市民に浸透しているかは疑問です。もっと多くの人に、歴史・自然・健康づくりなど様々な魅力について知ってもらえるため、体感してもらえるためにどうしたらよいか考えていく必要があります。 ○企画展や講座など、発掘成果や整備情報をタイムリーに発信する事業を評価します。来訪者の9割が市外という実態を踏まえ、映像を活用した広報や大河ドラマと連動した企画により、来訪のきっかけづくりが望まれます。